

第3回 ひろしま西風新都の都市づくり懇談会要旨

1. 懇談会名称

第3回 ひろしま西風新都の都市づくり懇談会

2. 開催日時

平成24年11月29日（木）10:00～12:00

3. 開催場所

広島市役所本庁14階 第7会議室

4. 出席者氏名（敬称略）

(1) 出席者（14名）

大東和 武司、塚井 誠人、長谷川 弘、秋野 征治、梶山 正治、國田 晃司、三宅 正昭、山崎 正志、藤井 豊、柳川 寿子、竹崎 宗一郎、古屋敷 峰予子、堀崎 真一、友道 康仁

(2) 欠席者（2名）

間野 博、大江 英毅

5. 議題（公開）

- (1) ひろしま西風新都の都市づくり懇談会開催要綱の改正の報告と座長（代理）の選任について
- (2) ひろしま西風新都都市づくり全体計画の見直しについて
- (3) ひろしま西風新都の都市づくり懇談会の意見・助言について

6. 傍聴人の人数

一般傍聴者5名、報道関係者3社

7. 懇談会資料名

資料1 「ひろしま西風新都の都市づくり懇談会開催要綱」の改正について(報告)

資料2 ひろしま西風新都都市づくり全体計画の見直しについて

資料3-1 ひろしま西風新都の都市づくり懇談会（第1回、第2回）での意見・助言のとりまとめ

資料3-2 ひろしま西風新都の都市づくり懇談会（第1回、第2回）での主な意見などに対する対応状況について

資料3-3 意見・助言の位置図

資料4 第2回 ひろしま西風新都の都市づくり懇談会要旨

資料5 今後の懇談会の開催予定について

8. 各出席者の発言要旨

- (1) 議題1 ひろしま西風新都の都市づくり懇談会開催要綱の改正の報告と座長（代理）の選任について
西風新都整備部脇坂専門員が、資料1により内容を報告し、間野座長の欠席により大東和氏が座長の代理として選任された。
- (2) 議題2 ひろしま西風新都都市づくり全体計画の見直しについて
西風新都整備部城戸専門員が、資料2（パワーポイント）により内容を説明。

【大東和座長】

ひろしま西風新都都市づくり全体計画の見直しのこれまでの開催、これからの開催予定を話してい

ただき、また改定計画の骨子、計画全体としては第1部が都市づくりマスタープラン、第2部が都市づくり推進プログラムという2部構成になるということと、本日は第1部の都市づくりマスタープランの理念、枠組、方針について詳しく説明いただき、最後に人口分布について説明していただいた。それではこれから意見交換をしていきたい。活発なご意見をいただければと思う。

【國田氏】

2つ質問や要望がある。サンフレッチェの専用スタジアムの件について、先日も私たちのところで話をしたが、それに通じて、いろいろ建設要望があちこちに出ているが、どうしても私たちにとっては現在の西風新都にぜひ残していただきたいというのが要望である。当然地域の希望というか、総意だが、そのためにはどうすればいいかという案だが、今広域公園にサッカー競技場があるが、そこを改良して専用スタジアムにしたらどうかということを提案させていただきたいと思う。私も行って見たが、これなら可能だと思い提案させていただく。これは私だけの意見ではなく、商工会の、地域の考え、そして西風新都の地域民の総意であるので、地元に残していただくようお願いしたいと思う。西風新都整備部の面子にかけて、ぜひ西風新都にスタジアムを残していただきたいと思う。よろしくお願ひしたい。

それともうひとつ、17ページと18ページの絵を見たが、これを見る限り非常にさみしいとは思っている。9ページにロケットの絵があるが、これは先導、推進の理念というが、これでは情熱がわかないような気がする。せめて外環状くらいは計画をいれてほしかった。

先日、地区の懇談会をやってメガソーラー、ICTを駆使したスマートシティの導入をこの伴東保留地に推進、導入を進めているという説明があったが、そのためには外環状も含めて計画できないかと思う。今見ると外環状が無い。善當寺地区のところは最初から決まっていたところで大した進歩がない。今から見直すのか、これで終わりと言うのか、質問したい。ぜひ前向きにやってもらいたいと思う。

【山崎氏】

今のサッカーの件だが、ビックアーチで、今回優勝して本当によかったと思う。湯崎知事がコメントにも出されているように県民に勇気と希望を与えたということと、我々西風新都に住む住民にとってもブランド力も上がり、非常にポテンシャルも上がったというふうに考えている。しかし残念ながら昨日の中国新聞の松井市長のコメントによると宇品地区とか、旧市民球場跡地等々という話がある。広島市が広域公園運動場、ビックアーチを所有しているので、これをもっと改善、改良を加えて、これを中心にサッカー競技場としても臨場感のある、あるいは、交通アクセスも良くして、これを盛り上げるというようなコメントを出してほしかった。

【藤井氏】

18ページの幹線道路で1箇所、外環状線、内環状線がある中で、点線部分がある。これが梶毛東工業地区から石内北流通地区への道である。西風新都クラブでもこの道路ができると交通渋滞が緩和できるという意見がたくさんあり、西風新都の中でいわゆる動脈に近いような道路ではないかなと思う。前回、山崎会長も言われたと思う。これは元々計画にはあったが、梶毛南流通地区が造成されないと道路ができないということで、なかなかデベロッパーが手をあげるところがなかったということでずっと保留という形になっているが、これからセントラルシティにどんどん住宅ができてくる。そして梶毛東工業地区も今から会社が建ってくるという中で、やはり大塚駅北交差点への集中を緩和するためにもぜひこの点線部分の道路を最優先でやっていただき石内バイパスへ抜けれる道をつくれば非常に便利が良くなると思っている。西風新都クラブの中には流通とか物流関係の会社がたくさんいるので、渋滞の緩和を考えた上では、この点線部分の道路は非常に大切と思っている。

【大東和座長】

18 ページのところの点線の道路を最優先にしてはどうかというご意見だった。

【三宅氏】

3 点ほど聞きたいが、まず一点は断層について、ちょうどこの団地の北辺りに大きな断層があるという話があるが、考慮に入れているかどうか。

それからもう一点は善當寺地区の外環状線、ぜひこれは通していただきたい。先日開発事業者から6月に着工と経済レポートに載ったが、着工できなかった。9月に延びて9月そのままになっているという話は聞いたがその後どうなっているのか、良い方向に進んでいるかどうか。今までの話では善當寺地区の開発が進まないと道路は無理だということであったが、先日、民から官へという説明があった。民が少々ダメでも官がやるのか、その決意を聞きたい。

それから大塚駅北交差点は非常に混むが、アストラムを跨いで道路ができるという話を先日聞いたが、先ほどその説明はなかったのも聞きたい。先ほど4号線のトンネルを抜けたら五日市インター直結するという話があったが、この話は頓挫したと聞いているが、それが復旧したのかどうか。4号線を抜けてからの二つの道路の検討状況はどうなっているのか聞きたい。

【西風新都整備部】

まず道路の今回お示しした考え方をもう一回説明したい。資料の14ページに今回開発計画の絞り込みということで現在、事業予定者のいない計画開発地区と保留地区は2030年までには見込めないだろうということで、その計画を除いた場合の絵姿を14ページの右側の方へ示させていただいている。その場合、計画、道路整備は時間がかかるということもあり、余り長い期間を目標として事業を進めると、なかなか目標というものは明らかにならない。どこをやっていったらいいか明らかにならないので当面20年間、概ね20年後の2030年をひとつの目標に、どこをやっていったらどうかという考え方で今回整理している。先ほど言ったように2030年時点でどこが開発が具体化していくかという絵姿が14ページの右側だということを前提に、どこの道路整備をやっていけばいいかということをお示ししたのが、18ページの絵である。このため、都市基盤の概成期の2030年、概ね20年後の道路ネットワークのどこをやっていったらいいか。開発が今具体化していないところをやっても、整備効果は上がっていかないということで、まず東西の軸で切れている部分として、梶毛東と石内北を結ぶところは東西の軸としてつなげていく。そうすることによって南北の交通の緩和にもなり、今渋滞が発生している大塚駅北交差点の渋滞緩和にもつながるといところが重要だと考えている。

また開発予定の善當寺地区や梶毛西地区の道路も重要だと考えており、善當寺地区の道路については、開発のための道路だけではなく、西風新都インターから降りてきた交通が、北東部方面や安佐南方面に抜けるという意味でも重要な路線だと考えている。開発事業者の動向は、現時点で進出企業を探しているという状況は続いているが、まだ諦めたわけではなく、市としてもできるだけこれをしていく、いただきたいと考えているため、ここを重要な路線だと位置づけ、路線の考え方を整理し今回提示している。

4号線の延伸は頓挫したわけではなく、具体的に進んでいないということで、すぐのことにはなかなかない。しかしながらこの路線は、本市の都市の広域的なアクセスの向上や、地域で言えば、大塚駅北交差点の渋滞緩和という意味からも今後必要だと考えている。

西風新都中央線の立体化は費用対効果と4号線の延伸との関連もあるため、たちまちやっていくのではなく、大塚駅北交差点の渋滞緩和に資するならば、梶毛東地区と石内北流通地区を結ぶ方がよいのではということで今回位置づけている。

活断層について説明させていただく。五日市断層は藤の木団地西側から伴北工業地区の方へ向うことが確認されている。もう一本、西風新都からは外れているが、東側に己斐断層があり、断層の位置

は当然把握している。今回西風新都に防災機能をもってくるという中で、防災拠点施設の代替機能の導入というのを考えている。防災拠点施設は建物単体でいうと免震構造等にするが、断層の真上はふさわしくないため断層等の位置関係を十分考慮しながら防災拠点施設をどこへ持ってくるかというのを考えている。

【三宅氏】

もう一点確認したいが、神原のしだれ桜のところの道路は通れるが、すごく狭い。整備する計画はあるのか。

【山崎氏】

この道路は、佐伯区の神原地区にあり、約600mの延長がある。現在、境界の立会を終わり、一番狭い部分の買収を始めたいと佐伯区役所が言っているので、見通しは立っている。ただし、いつ広がるかという時期はわからない。幅は7mと聞いている。

それに関連して、前回も提案したが、梶毛東地区は既に石内北一丁目から五丁目と街の名前も設定されており、実際に住宅も建って、工場も3社来ている。ここから官で先行して買収して、石内へつなげるとよいが、市が先行して買収できるのか、できないのか、その辺を聞きたい。

【西風新都整備部】

神原地区の道路は佐伯1区486号線で約7mの幅員で計画されている。

梶毛東地区から石内北地区の道路は、開発事業者がいない状況で、確認したところ、デベロッパーが土地を買い占めているという状況も見受けられないため、ここは市としても用地買収をして進めていければと考えている。

【秋野氏】

22ページに防災機能の充実強化の方針ということで今日説明を受けたが、この地図を見ると平地にある伴地区はそういう拠点として考えていないというような感じを受ける。防災機能の充実ということになると、前にも掲げていたが中国地方の成長の発展を牽引することや、将来的に道州制のことを考えると、防災機能を日本でも有数の施設、地域にしてもらいたいと思っている。防災センター、防災学習センターの整備も考慮に入れてもらいたい。それから当然、訓練ヤードなどの広場も必要になってくると思う。そういったことは今から検討すると思うが、善當寺地区にその拠点をもってきていただきたい。そうすることによって開発の軸を通すとともに循環型幹線道路のネットワークが早期にできると思う。先ほど出ていたが、開発事業がストップしている状況で、広島市がこういうことに取り組むことによって動きが出てくるのではないかと考えている。そういう拠点にするという考え、方針を出してもらおうと善當寺地区や外環状線の促進にもつながるのではないかと考えているので、善當寺地区を防災機能センターの一部にして検討してもらいたい。

【柳川氏】

全国有数の都市防災機能を持った都市という、例えばそれを旗印にするのであれば、何か一本大きな旗を立てる。西風新都としては防災がふさわしいかと思うが、例えば北九州市はスマートシティ、エコを売り物にして全国的に名前が通ってきている。何かキャッチフレーズが、必要ではないかと思っている。

何回も梶毛東地区から石内北地区の道路に戻るが、いつも6時頃という一番混む時間に帰るが、大塚駅北交差点は車線が増え、市内や北方面はスムーズである。2号線方面は相変わらずすごく渋滞するが、そこを抜けても今度は五日市インターから降りてきた車で、抜けるのにすごく時間がかかる。それを解決するには先ほど言った道路で、西風新都インターを降りた車をそちらに誘導できるため、かなりの割合で解決されると、通るたびに実感している。

【藤井氏】

防災のことで聞きたいが、救援物資の広島市の備蓄基地はどこにあるのか。

【西風新都整備部】

正確には把握していないが、各消防と最近ではマツダスタジアムの地下に大きな備蓄倉庫をつくっている。

【藤井氏】

数年前、新潟の中越地震の際に、トラック協会で緊急救援物資輸送の体制づくりをやったことがある。備蓄基地は当時、広島空港に1ヵ所あるだけだった。水、食料、毛布などの備蓄基地と新しく救援物資輸送のセンターを、岐阜県ではトラック協会がつくっているが、一部含めたものを西風新都のどこかへ設置して、ヘリポートや宿泊施設も完備したような総合的なものをつくったらと思う。やはりマツダスタジアムも遠く、1箇所しかないということは非常に怖いことだと思う。ぜひその辺も具体的なものを付け加えていただきたい。

【梶山氏】

今の件に関連して、広島市は予算がないということで、約20年先のプランもよいが、現在の3つの拠点、広域公園、市立大学、免許センターはわかるが、市立大学の上には随分空地がある。ここは市の方が所有している分もあると思う。善當寺地区で行うことも素晴らしいが、随分費用がかかるということで具体的に早めに行えるものと考えていかないと、絵にかいた餅で終わるんじゃないかというきらいがある。短期、中期、長期くらいをもう少し具体的にやっていかないと、ただプランができたというだけになるような気がする。もう少し、実際にすぐ目に見えるような方向にもって行っていただきたい。それと長期の展望は素晴らしいことをあげて結構だと思うので、そこの辺りをよろしくお願ひしたい。

【西風新都整備部】

今回はマスタープランという形で大枠を示させていただいた。今後、目に見えるような形ということで、プログラムも掲載していく中で、どこまで書き込めるかということもあるが、当面の課題や長期的な課題という整理をして、できればプログラムの中に記載できればと考えている。

【友道課長】

今回資料がかなり充実してきたのではないかと考えている。その中で基本的な部分で、枠組、方針の中でここにはマスタープランという理念から書いてある。この計画自体、広島市のこれまでの開発計画等々は、上位計画に基づいて進められてきたのではないかと感じているが、これまでの記述が無いので、特に都市計画のマスタープラン、それから広島市でつくっている長期計画との関係がどうなっているかということと、13ページの将来の計画ということで2030年、平成42年を計画にということであるが、これは20年先ということで、我々の感覚的には10年ピッチの計画というのを思い浮かべる。その辺りはどのように考えているか。それから計画人口がでていますが、この考え方を教えていただきたい。

【西風新都整備部】

市の上位計画との整合について、広島市では第5次基本計画、都市計画に関することと言えば都市計画マスタープランがあるが、都市計画マスタープランについては現在策定、更新の作業中ということで、それと整合を図っていこうと考えている。今回、この事業計画との整合の記載が無かったが、素案の中で盛り込んでいければと考えている。計画期間については、先ほどの短期、中期、長期という話と関連すると思うのでプログラムの中でどういうピッチで刻んでいくとかいうことも含めて検討していきたいと考えている。

補足として、10年ピッチ、20年かどうかという件については、都市計画マスタープランの考え方が

国から示されているが、マスタープランは概ね 20 年後の都市の姿を展望した上でという考え方が国から示されている。その中で都市施設、具体的な再開発事業などは概ね 10 年という記述もされている。西風新都については道路 1 本や一つの事業だけではなく、複数の道路があるため、10 年ということではなく都市計画マスタープランと合わせて 20 年くらいのスパンで捉えた方がよいのではないかとということで 20 年という設定をさせていただいている。

計画人口については、スライドの 13 ページに、人口の推移を掲載している。現在平成 24 年、2012 年で 5 万人ちょっとという状況である。計画人口をどう推計したかということについては、簡単に言うと、今現在の人口、最近では平成 22 年の国勢調査の人口がある。それを基準人口にして、例えば開発がもう一切ないとした時に、自然増とか社会増で人口がどのように推移するかというのを推計する必要がある。ただそれには出生率とか移動率とかそういう仮定値が必要になるが、西風新都単独でそういう仮定値を設定するというのが難しかったため、広島市全体の出生率や出生性比、移動率など決まった仮定値がある。まず広島市全体の仮定値を設定し、2030 年までの広島市全体の人口推計を行っている。その広島市全体の人口推移と同じ勾配で西風新都の人口も変わるという仮定のもとで平成 20 年現在の人口をまず推計し、それに実際は今後開発されることによる人口増があるので開発事業者からヒアリングをして、計画戸数や分譲計画などを確認し、先ほど推計した人口にオンした。そうすると 6 万 7 千人になったということである。その 6 万 7 千人の根拠となる開発計画というのは、先ほどの開発計画の絞り込みでご説明した、2030 年までに具体性のある開発計画であり、具体性が今の時点ではない梶毛南、石内南、5 つの開発保留地区は落とした形で右側の図面を前提にヒアリング等を基にし、計画人口を推計している。

【長谷川氏】

全体的な印象を申し上げたい。これを見た時に、これは都市づくりというよりは道路整備計画ではないかという印象を持った。都市づくり、まちづくりということは道路づくりだけではないと思う。今回担当が整備部ということで、どうしてもインフラから入るアプローチが多いかと思うが、インフラ整備、特に道路をしっかりと色々な理由からつくって、そういった基盤が無いと進まないということはよくわかっている。ただし物をつくってその上に乗っかってる人々が何をやるかというプランニングがないと今までたくさんの例があったが、物をつくった、人は増えないでおしまいというところがたくさん日本全国にある。ハードは確かにこういうふうきめ細かいことでよいと思うが、それではハードができた後に、そこに住んでいる人たちはどういうコミュニティをつくって、例えば先ほどサッカースタジアムの話があった。今後、あの場所を継続するかわからないが、仮につくったときに周りに住んでいる人たちはどのような利用の仕方をしていくのか、どう盛り上げていくのかということが、ソフト的な計画としてないと、物ばかりあったがそれで終わってしまったと成りかねない。選択と集中という方針で今回つくったと思う。まずは選択、総花的にやったのではだめだと、どっかに集中的にやろうと、もしその中で道路に集中ということで、今回こういう形になったとすればそれはそれでいいと思う。ただ今回はそういう意味で集中でやったが、次の段階では、ソフトのどこそこへ向うというロードマップがあったうえでないと、今回は道を集中してやるという位置づけが明確にならない。2030 年までにこういうことをやる。次の年からはどういうことをやるかというハードとソフトの組み合わせが明確に示されないで、これを見たときにこれは道路整備計画ではないかと、つくられた後、我々はどうすればいいんだという話が印象に残った。ハードはハードで結構だと思うが、今回やってるハードは全体の長期的な計画の中でどういう位置づけで今やろうとしていると、そのあとに何が来るかということも合わせて明記し位置づけをきちんとしなしないと、これを見た我々一般市民はやはり新しみが無いというか、これは道路計画だという話になる。確かに防災や護る、景観など若干ソフト的なところは出ているが、今ここまで出てきた最初の第 1 部だけを見ると、ソフト

の位置づけもしっかりしてなく、位置づけを今後するのであれば、そのニュアンスを言っておかないといけないと思う。方針がここで3つほど出ているが、この3つの方針だけ見て、2部はどんなものが出るかと想像するに、やはりソフトは出てこない気がする。もしそうでないとなればどういふふうを考えているかということをごどこかに明記するとか、あるいはソフトの面ももう少しあった方がよい。第2部の方にももう少し展開し、ソフトとハードのバランスをもう少し考えてもらいたい。

【秋野氏】

私も同感に思っている。この西風新都をひとつ拠点にして日本の文化を世界に発信するというようなつもりで考えたかどうかと思う。と言うのも宇品の1万トンバースに年間数十隻、1500人位の客船が入ってくる。これは観光客だが、これが平和公園と宮島を観光したら船に帰って後はパーティーをして広島を去るというような状態である。それでは広島としてちょっと寂しいということで、日本の文化もぶつけて、日本の印象を良くして帰ってもらいたいと思っている。そのためには西風新都に神楽団が5つあり、茶道の先生もたくさんいる。そういう日本古来の伝承文化を観光客に体験してもらうというようなこともよい。修道大学には短期の留学生在が韓国や中国から70、80人毎年いらっしゃるが、日本の文化に接してみたいという話をよく聞く。我々が仲介し祭りに神楽団を案内したり、茶道の先生のところで1週間くらい体験してもらったりしている。今後西風新都にそういう文化面を発信できるような、またインフラにつながるのかどうかかわからないが、その辺もみんな考えて日本の文化を皆さんに理解してもらおう。これもひとつの考えではないかと思っている。

【三宅氏】

10ページにマスタープランの理念について、住む、働き、学ぶ、憩うと護る、5つあげてあるが、我々町内会の活動としては、安全で安心で住みよいまちづくり、これをキャッチフレーズで活動している。そういう観点から見るとやはり地元の住民としては、5万人以上のところで総合病院がないということで一番要望が強いのは総合病院である。先日広島市から説明があったが、ベット数がその地域で足りておれば病院はつくらなくてもいいというような説明があったが、安佐南区の住民が安佐北区の市民病院に通っているという変な現象がある。

それと、各地区に公民館はあるがこれだけの人口を抱えながら合同庁舎がないということで、先日も申し上げたが、車の納税証明をとるのに可部町の方まで行ってそこで再発行してもらっているようなことが起きている。したがってこれからの将来を考えるとそういう住民が安心して生活できるような施設もぜひ考えていただきたいと思う。

それからもう1点、焼却場が完成し燃焼試験をしている。11月から燃やし始めているが来年の4月からは本格的に稼働を始める。稼働始めると可部地区、五日市地区の両地区のゴミがこの安佐南区の焼却場に運ばれるということで、かなりの車の量が増える。しかし道路整備はできてない。前提条件である道路整備ができずに、もう程無くしたら本格稼働に入るといことで住民の一部はストをやっても止めようかというような話もある。環境局が行っているが、道路がまだ進んでいないので、早めに、少しでも道路の改良ができるようにぜひこちらの方からも、後押ししていただきたいと思う。

【塚井氏】

今日もたくさんの方からいろんな角度からご発言を伺っている中での傍観者的な印象になるが、先ほどもご指摘があったソフト的なところまでいく以前で、話が詰まっているような印象を受ける。いろんな整備計画の前提がインフラになっている。そのことをこの件に関わる関係主体の方々に対して、きちんとどうやって示すのか、見せ方というのが今問われているのではないと思われる。今回、現在の人口分布と人口フレームをお示し頂いたが、今までの話を総合するとおそらく次に必要になってくるのは、この人口分布図が10年先なり20年先にどこがどうなるかということに基づいて考えることだろう。また人口分布図だけではなく従業員人口の分布なども実は問題だろう。つまり、新しい施設ができ、新しい開発が起こったときに住民の方の発生交通量の原単位もあるが、業務の方の原単位も

よく見ておかないといけない。先ほど話題になった焼却場への流入交通に対応する道路整備の話や、破線のところの南側の道路を開発の話等々を考えていくときに、例えば後者についてこれは非常に細かい問題だが、五日市インターのところ右折で入れるか左折で入れるかという話は、実は安全面の課題を改善するという意味だけではなく、交通容量的な課題を解消する意味がある。これは逆に言うと地区の開発が起こるから道路を通すということではなく、皆さんが感じになっているように迂回できる道路をきちんと用意してあげるといふことの説明の仕方である。右折ではなく左折としてきちんと交差点容量を確保する。問題としてはローカルなことだが、その根拠を求めようとすると、結局どの場所からどう交通がおきて起こるのかという予測、情報をきちんと示しながらやるということではないかと思う。特に大事なことは将来に向けての増分をうまく見積もっていくということである。こういう開発が起ればここでこういうことがあるだろう。したがって道路としてはこうであろう。人口フレームは3ページで一目難しそうな計算をしているが、非常に簡単に見ると毎年千人くらいで増えてるという状態である。この地区への流入は平均的に千人ずつ起こる。トレンドはある意味一番正しい将来予測になっている。特に直近のところでは正しい予測になるので開発行為が継続して起ればそれくらいであるだろう。したがってほとんど過去のトレンドと同じように、18年間で1万7千人増えるという予測になっており、これは現在と同じようなペースで開発が続くという前提がなされていると、ざっくり言うとそういう理解になる。その妥当性という話はさておき、計画通りに進めば、特に5年、10年の範囲くらいではこのくらいのことは起こるといふのは十分に考えられる。この前提に立てば、道路、道路と皆さんが言われるのも当然であり、交通容量は例えば30%削減できれば、ほとんどの箇所で渋滞はなくなって、交差点も全部スムーズに通れるようになることは工学的に明らかだ。一方で10%増えただけでも非常に大きな影響が、渋滞長で言えば目に見えて延びてくる。通過時間も10%増えるだけでは済まない。そういうような状態がやってくる。これを考えるに、例えば10年間先だと考えて非常にざっくり半分増えると考え8千5百人増えるということで、これは地区の人口がだいたい16%増えるということであり結構大きな問題になると思う。つまり道路の方が継続的にこの地区で問題になるということは概算でも明らかで、ぜひ交通ネットワーク全体を考えたときに必要な道路の精査をお願いできないか？ さらにせつかく人口フレームが出てきたのだから、これからできれば示していただきたいのはどこの地点がどれくらいの交通流率になっているか、車線辺りの交通量がどれくらい設計に対してオーバーしているか、というようなことを見ると、当面何をすればいいかということはおわかってくると思う。

感想的なことをいくつか申し上げるが、地区を見ていて私も迂闊だったが安佐南区、安佐北区、佐伯区である。前回一体感が無いとの話があった。行政区というのがどれくらい一体感に影響するものなのかわからないが、一体感というのは意識の問題というよりも、たとえばむしろ行政の仕組みとしていろんなものを整理していくときに調整にかかるコストが高くなる、あちらこちらに話をしなくてはならなくてここで受けていただくところがない、そういうようなことが、きっと一体感がない、一体的な整備が行われているように見えない、という感想につながっていくのではないかと推測する。これはちょっと暴論に近いかもしれないが、境界に跨って場所を開発する時には、行政区を見直しても良いのではないかと？ 例えば札幌市の清田区と豊平区で分区がなされている。分区というところちょっと大きな話になるが、おそらくここで西風新都整備部という部署までつくってこのようなことを考えている以上は、この地区の開発に関して、今までの仕組みが実態に合わなくなっているとお考えなのではないか？ 広島市の区域を画定した当初の人口分布とこの西風新都の人口分布がマッチしなくなっている。その話と防災拠点の話というのは実は遠いようで近い話だと思う。地区の一体感を出す、地区の中での行政を一体的に進めるということを検討されるのであれば分区しなさいというのは暴論であっても、防災拠点を整備するという話の流れでこの地区の行政の仕組みを考え直すという発想は持っておかないと、物事が解決しないように思われる。行政組織を変えれば全て解決するとかそういうことではないが、様々な地区整備や地区の活動をサポートするための仕掛けづくり、それと長期的

な展望を描くにしても、短期的にどこを完了していくという話をするにしても、この件について具体的に計画の中に書けるかどうかかわからないが、別途であっても何か考えた方がいいのではと思う。

最後に先ほどから諸々出てきている施策とソフト施策の関係だが、おそらく地区の方の考えとして勝手に推測するが、おそらくベースラインとしては道路の問題、広く交通の問題が一番きついのだろう。この問題を乗せたうえで、その次に何をそれぞれのところで考えるかということになっていくのではないと思う。本日非常に勉強になったのが、この位置図でご指摘いただいた意見をマップにいただいたことであった。私が個人的に地区が理解できたというだけの話だが、皆さんとやっと同じようなスタートラインに立てたと思っている。ところでこのマップ上の整理というのが実はこの先があって、発言と対応させた番号で分けるだけではなくて、テーマで分けるべき話と思われる。例えば産業の立地に関する話なのか、その交通の渋滞に関する話なのか、医療の問題なのか、それとも住民の方の生活にかかわる話なのか、それぞれの色分けをしていくと、必然的に事業として長い時間を要するもの、ある程度時間がかかるもの、それからソフトとしてすぐに取り組みそうなもの、話をある程度の切り分けができてくると思う。もう皆さん頭の中ではご存知のことで、今さらという感じはするが、おそらくこの懇談会の目的、ミッションは優先順位をどうつけるかということだろう。いくつかの課題の中に20年くらいかかる話があっても、かかるものはかかるでこれは仕方がない。しかし、すべてのレベルの話が一緒になって出てくると、やはり聞いてる方としても少し混乱する。そういう意味ですぐできそうな話かどうかというのを、今日のご意見を元に追加してもらえば、見通しがよくなるだろう。実は個人的にはこの懇談会としてとりまとめのプランを確定する段階では、おそらく全部のことはまとまらないと思うが、何が宿題であったかというのははっきりさせなくてはならない。この懇談会の中でこういう方針になったということは今後の計画の前提の一つになるので、今度はそこからいろんな絵が描ける。住民の方が、どういうふうに基づいて活動するか描けるような整理ができると感じた。

【大東和座長】

最後に言われたことはこのあとの3つめの議題に関わるかと思う。2番目の議題の時間がそろそろなくなってきたが、他に何かご意見はないか。

【古屋敷氏】

スライドの10ページで新しく護るというのが入っていたが、それを入れた理由がよくわからない。この立地特性を活かされると21ページに書いてあるが、高速4号線によりデルタ都市とのアクセスが高いと書いてあるが、地震が起きたときに一番危ないのはトンネルなどだと思う。そこを踏まえてもう少し案を練った方がよいのではと考えた。

【竹崎氏】

先ほどサンフレッチェのスタジアムについて少し出たが、サッカー専用、球技専用のスタジアムがほしいということで、今署名などをしていると思う。実際、第一球技場の案は以前出たと思うが、2重投資になるとの理由などで却下されたように思う。西風新都としては、それは諦めたのか、それともそこを持ち直して、地域として出していくのかいうのか気になった。

【大東和座長】

ソフトの面はまたあとで出るかもしれない。色々なご意見をいただいたが、改定計画の骨子についての質疑応答についてはここでいったん終わらせていただき、3番目の懇談会での意見・助言の議題を進めながら、さらに意見等をいただきたい。

(3) 議題3 ひろしま西風新都の都市づくり懇談会の意見・助言について

多久島専門員が、資料3の1～3により第1回、第2回懇談会での意見・助言について説明を行った。

【塚井氏】

それぞれご回答いただいているわけで大変結構と思うが、おそらく調整を要する非常に状況依存のようなもの、他の開発計画と関係するもの、あるいは複数の部署が合同でしないとできないものなど、評価の軸は色々あるとは思うが、実行可能性を何らかの意味で評価されるべきではないかと思う。それに係る費用もあるが、今の場合は時間ではないか。うまくいってどれくらいの時間でできそうなのかという目安が無いと、少し不安に思う。

それから先ほどの防災の話、もう一点言い忘れたことがあった。先ほどの観点とは少し違う観点になるが、防災の拠点というのは、なかなか難しいものがあるって、非常時のためだけにそれを準備すると遊休になる。施設自体がほとんどのタイミングで使われないものをつくる。このような施設は無駄に見えるし、特に中に通信機器を入れたりするとそれは10年経つと全くスペックが変わってしまい意味が無いというか、お金をかけて役に立たないものをつくっていざとなったら全然使えないというようなことになる。それを防ぐためにどうするか。防災拠点を設置するという発想はよいが、それを平時でもどうやって使い続けるかということを見ると、やっぱり何らかの意味でその中に行政の拠点をつくるしかないのではないかと思ひ、先ほどのようなことを申し上げた。防災拠点の話と一体というのはそういう意味である。平時時に何が起きるか。それから先ほどご指摘もあったが、道州制になるのかはわからないが少なくとも広島県としてはこの地域で起こる自然災害のことも考えとかなないといけない。頻発する県内で起こる土砂災害の話に対して、観測網をどうしていくのか。これは広島市ではなくて広島県の課題になるが、それに対して、市のこちら側からバックアップしていくか。人材も資材も広島県の場合は沿岸部、特に広島市に集中している中でどうやって広島市全体の拠点性を県の防災にどうやって活かしていくか。そういうところの調整がないと広島市の中だけの代替機能の話だけをしているとおそらく位置づけがしきれない。それほどものが逆にいらぬという話になるのではないかということ懸念している。その先に道州制があるかはまだまだ状況依存的だが、しかしながら長い目でこのプランを描くのであれば一応そこまでは視野に入れておきたい。そういうところから位置づけをなされないとなかなか護るという話は、地区の住民の方を守るというのはこれは第一義だが、それはそれでローカルにやっていく。ここで議論された護るという話はそのレベルよりも大きなことを考えているように思えるので検討いただきたい。

【山崎氏】

事務局が西風新都整備部なので担当が違うかと思うが、市長はワークライフバランスと盛んに言われている。今の西風新都に産業立地の土地が広くある。今日の資料にはないが、どういう形で企業誘致というか、広島市の土地でもないのそこら辺も非常に課題があるかと思うが、経済観光局はどういう方法で企業の誘致を全国的にやっているのか。私は第1回もそういう話をさせていただいたが、各市町村、各県で企業の誘致、最先端のものを誘致している。広島市としては、どういう方法でやっているのか。ただ新聞に載せているのか。日刊工業新聞には出ているが、どういう形で実際に進められているのか。

もう一つは話が全然別だが、今日はアストラムラインの話がでなかった。現在、道路交通局で13年前の案を検証している。それによって改定計画を詰めていくとここに書いてあるが、それ自体、小さな環の中で検証してみてそれがダメだったらどうするのかということが知りたい。例えば五日市ルート、広域的、公益的と市長は言われているが、そういう意味からすれば、私たち石内地区としてはぜひ五日市へ延伸していただきたいと考えている。その他、新井口駅ルートを合わせて道路交通局の方で検討を進めたらいいのではないかとというのが提案である。

【大東和座長】

今日は改定計画の骨子についてご検討いただき、多くの貴重なご意見を頂戴し、ありがとうございました。「護る」という新しい機能が加わり5つになったので、それに合わせて今までの「西風新都」というキャッチフレーズだけでなく、サブになるかもしれないが新しいキャッチフレーズが必要かもしれない。また、ハードの面のみならず、ソフトの面を加えていき、その組み合わせ、あるいは運動等をさせながら、計画を実現させていく途を明確にすることが必要だろう。また上位計画との整合性

ももたせながら次回にさらに具体的な検討がなされ、「見直し」への具体的な議論がいつそう深まっていくことと思う。それでは西風新都整備部の方へお返しする。

【西風新都整備部】

ここで1件ほどご報告させていただく。第2回の懇談会で各地の課題や要望が多く全体的な見直しの具体性が出てこない。石内や沼田など地区ごとの懇談会のようなものを持つのもひとつの案であるとのご意見があった。このご意見に対し、10月31日には西風新都に立地している企業で構成している広島西風新都クラブの皆様と、11月19日には石内地区の町内会で構成している石内まちづくり協議会の皆様、11月22日には沼田地区の町内会などで構成している沼田町伴地区コミュニティ推進協議会の皆様と個別に意見交換している。以上、ご報告させていただく。

(4) 連絡事項

- ・ 次回の懇談会開催は、来年2月頃を予定としている。
(開催日時はあらためて連絡する。)

(5) 閉会